

青木繁旧居

久留米大学留学生別科

けやき組 223BA05

TRAN NHU QUYNH

1. はじめに

私は近代美術に興味を持っている。18、19世紀ほど経済と文化の密接な関係をはっきり表れた時代がほとんどない。近代美術もそうだ。美しさや個人の主観を重視し、表現できるようになっただけではなく、時代の変化、思想なども近代美術を通じて見ることができる。日本の場合は、明治時代が変化期で、洋画の油絵も入り始めた。日本洋画界の鬼才であり、洋画家の父としての青木繁氏は強い印象を残している。だが、青木繁の悲劇的な人生を見ると、ロマン主義との関わりや情熱のきっかけ（動機）などが窺えなかった。それで、青木繁旧居を訪れ、青木繁のことについてインタビューを行った。

2. 背景

近代日本美術展史によると、日本洋画の歴史は1896年（明治29）、現在の東京藝術大学の前身である東京美術学校にはじめて洋画科が設置されて、同年、白馬会が結成された。白馬会展を舞台として活躍した画家たちの中で、特に傑出した存在は青木繁である。久留米市ホームページの青木繁の紹介によると、以下のように書かれている。

福岡県久留米市に旧有馬藩士の長男として生まれた青木繁（1882-1911）は、早くから洋画家を志して、翌1900年（明治33）東京美術学校西洋画科に入学する。その間、青木はラファエル前派、ギュスタブ・モロー、シャバンヌなども独自に吸収し、明治30年代後半、時代の上昇機運と芸術思潮を背景として、黒田系外光派を超えた香り高い浪漫的美術を開花させて注目される。残念ながら、家の事情で帰郷して数年間九州各地を放浪、制作し、明治44年3月25日、窮乏のうちに28歳の生涯を閉じた。

ここから、青木繁の才能が注目されたものの、短くも劇的な生涯だった。東京での7年間にわたり、美術の道を歩んだが、困難なことがあっても絵を描き続け、最後まで決して諦めなかったことが分かった。

青木繁と家族との関係はよくないと言われている。藤（2010）は、「江戸時代の武士階級の家父長制に基づく家制度であった。（中略）つまり、長男が家にとどまり結婚をして子を産むというような、家の継承が使命とされていた」と述べられている。そのため青木繁の父、青木廉吾も青木繁の芸術の道への志向を理解できないのは当然ではないだろうか。なぜ17歳の青木繁は父親の大反対を押し切って、一人で東京へ行くことにしたかという疑問を明らかにしたいと思い、青木繁旧居を訪れた。

青木繁旧居は青木繁が少年期を過ごし、芸術の才能を育んだ故郷の家を復元整備した所であり、久留米市にとっても重要な文化的な財産である。新材を使用し、全面的な復元整備を行い、構造補強の処置も施した。青木が生きた明治時代の雰囲気や落ち着いた趣を感じることができるよう、床の間や広縁、階段、雨戸の反転金具などは元のままのものを使用されている。内部には青木繁に関する写真パネルや解説パネル、青木繁の作品の複製画などを展示している。

3. インタビュー

2023年12月26日青木繁旧居保存会の会長荒木康博氏にインタビューをした。質問と回答は次の通りである。

質問1：なぜ青木繁旧居を復元しましたか。

回答1：ここは青木繁が生まれた家です。青木繁は久留米に帰りますが、生活は非常に貧しいから、この家を売ってしまいます。それから、いろんな人が住みます。その後1999年に

永い間風雨にさらされ老朽化したためムーンスターの駐車場になりました。それから、私たちは青木繁保存会を作って、何とか旧居をもう一回残し、みんなに見てもらおうようにしたいと思ったからです。

質問 2 : その時、復元費用はどうしましたか。

回答 2 : 費用がかかるので、街頭募金で、青木繁のために寄付をお願いしたり、近くの小学校の子供たちと一緒に久留米の街に立って、募金活動を 3 年間ずっとしたりしました。久留米市にもお願いし、久留米からの支援と市民からの募金を合わせて、この旧居を平成 15 年（2003 年）に復元しました。

質問 3 : 青木繁と家族の関係はあまりよくないと書いてありますが、その背景について教えてください。

回答 3 : 子供の頃は青木繁の父親（青木廉吾）はとても厳しかったそうです。青木繁は 5 人兄弟の長男ですから、当時父親の後継ぎは当たり前で、大変期待されました。父親は江戸時代生まれの武士階級時代の人なので、子供が絵の勉強をするというのは父親にとって、ショックなことで、青木に向かって「お前はもうこの世に要らなかったにする。ここで死ね！」といます。17 歳の青木繁は「どうぞ! 刀で突いてください」と答えます。父親の大反対を押し切って、東京美術学校西洋画科に入学します。25 歳の時、父親が亡くなり、久留米に戻ります。そしてこの家が売られ、借金をします。青木は東京や栃木に戻れなくなります。さらに、5 人兄弟のうち青木だけが東京美術大学に進学したので、母親は大学に入れば学校の先生になれると思っていました。ですが、青木繁は就職する気が全くなく、絵の世界だけで生きていきたいという気持ちが強かった。それで、母親と兄弟とも大喧嘩しました。

質問 4 : 17 歳の青木繁はなぜそんなに無謀なことにしたんですか。

回答 4 : 絶対とは言えないんですが青木繁はいろんな言葉を残しています。青木繁が 17 歳の

ときに家に出る時に、周りが止めます。「なんでお前そんなに絵描きになろうと思うんだ」友達も親戚もみんな反対します。その時、青木繁はその人たちに言った言葉は一つだけあります。それはとても大事なものです。

以下は青木繁の言葉である：

僕は 17 年生きてきて、やっとわかったことがある。それは人間があらゆる動物の一種類でありその人間しか与えられていない能力がある。それはイマジネーション（想像力）であり、そのイマジネーションをいかせる仕事は芸術しかない。

質問 5：一年中、どんな活動が行われていますか。

回答 5：いろんな活動を行っています。たとえば、青木の絵や人間性を語り合うイベント、お茶を楽しむ会や小・中学校の見学などが毎年行われています。2022 年の 10 月に生誕 140 年「ふたつの旅青木繁×坂本繁二郎」はその第一弾として、同郷同年生まれの洋画家、青木繁と坂本繁二郎の二人展を 66 年ぶりに青木繁旧居と久留米市美術館と坂本繁二郎生家、同時に開催します。図書資料、DVD やみんなの感想なども自由に見ることができます。

インタビューをする前は青木繁の転機について知っていたが、青木繁の決断の背後にある理由は理解できなかった。しかし、このインタビューで青木繁旧居保存会の会長荒木氏に丁寧に答えていただき、17 歳の青木繁の決心や美術のための絶え間ない強い意志などが見えるようになった。

4. 考察および提案

久留米にある青木繁旧居は青木繁の絵を愛する人々が訪れる所だけではなく、私のような

若者が自分の意思を強く持つことの大切さを学べると思う。美術に対する情熱が込められている作品を目のあたりにしながら会長の話聞き、インスピレーションを受けて、夢を追い求める気持ちが湧いてきた。また、青木繁旧居を訪れたことで、青木繁本人だけではなくその家族関係や時代背景も含め、久留米との結び付きがよく分かった。だから、外国人にもよく知られるように、日本語学校や大学の別科など、青木繁旧居の見学会を毎年行ってほしい。久留米市民や外国人にとってもいい機会になるのではないだろうか。

5. まとめ

今回のインタビューを通して、青木繁の生涯について知ることができた。特に、青木繁の芸術への情熱や浪漫主義とのつながりを感じることができる。イマジネーションをいかせる仕事は芸術しかないと思う青木繁は周りの人の大反対や当時の美術界が認められなかったのにもかかわらず、芸術に打ち込み、人生を意味あるものにしようとした。青木繁は晩年まで絵を描きつづけた。私も青木繁から、インスピレーションをもらい、大きな夢を持ち、どのような困難があっても、夢を追い求める勇気を持ち続けたい。

参考文献

藤京子（2010）『変遷—「個」を中心とした新たな家族形態へ』千葉敬愛短期大学紀要

久留米市ホームページ，青木繁旧居，

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1080kankou/2010bunka/3030bunkahall/2010-0412-1540-239.html>（2024年1月17日閲覧）

高橋沙希（2015）『青木繁：世紀末美術との邂逅』求龍堂

陶山伊知郎（2023）『近代日本美術展史』国書刊行会



青木繁旧居保存会の会長荒木氏
2023年12月26日撮影
(撮影許可あり)



青木繁に関する資料、新聞を読んでいる様子
2023年12月26日撮影
(撮影許可あり)



青木繁旧居を見学した子供たちの感想
2024年01月10日撮影
(撮影許可あり)



青木繁旧居での「お茶を楽しむ会」のチラシ
2023年12月26日撮影
(撮影許可あり)